

公立大学法人和歌山県立医科大学

令和 2 事業年度の業務実績に関する評価結果

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の令和2事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の令和2年度業務実績に関する年度評価を実施した。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものである。

今回の年度評価は、第3期中期目標期間の3年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価した。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用されることで、より一層、教育・研究・診療それぞれの活動が充実するとともに、法人の業務運営状況に対する県民の理解が深まることを期待する。

令和3年●月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

- 1 総 評
- 2 特色ある取組等

第2 項目別評価

- 1 教育研究等の質の向上
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 国際化
- 2 地域貢献
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 地域の活性化
- 3 業務運営の改善及び効率化
 - (1) 法人運営の強化
 - (2) 人事の適正化・人材育成等
 - (3) 事務等の効率化・合理化
- 4 財務内容の改善
 - (1) 財務内容の健全化
 - (2) 自己収入の増加
 - (3) 経費の抑制
 - (4) 資産の運用管理の改善
- 5 自己点検・評価及び情報提供
 - (1) 評価の充実
 - (2) 情報公開及び情報発信
- 6 その他業務運営
 - (1) 施設及び設備の整備・活用等
 - (2) 安全管理
 - (3) 法令・倫理等の遵守
 - (4) 基本的人権の尊重

第1 全体評価

1 総 評

和歌山県立医科大学（以下「大学」という。）は、県内唯一の医科大学として、本県の先端医療・地域医療を担うとともに、医育機関としての使命を負っており、より良い大学教育と地域医療を推進するため、多彩な取組を精力的に行っている。

令和2年度は、新たに地域貢献を大きな柱の一つとして位置付け、その取組をスタートさせた第3期中期計画の3年目であり、令和元年度の業務実績評価結果を踏まえ、理事長・学長のリーダーシップのもと、全ての分野において職員全員が一丸となって取組み、着実な進展をみせたと認められる。

令和2年度計画161項目の業務実績を確認したところ、3項目が「年度計画を上回って実施している。」、146項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、12項目については、「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、第3期中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。

特に、以下の取組等について評価する。

【教育】

- 令和3年度の薬学部開学に向け、伏虎キャンパスの整備を完了するとともに、各種規程の整備やカリキュラム編成等開学準備を進めたことについて評価する。今後、医療系総合大学として、更なる飛躍を期待する。
- 新卒者の看護師・保健師国家試験合格率100%を2年連続で維持しているのは、保健看護学部の教育の成果を反映している。

【診療】

- 附属病院本院において、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、病床稼働率（病床利用率）が低下したにも関わらず、入院診療単価が大幅に上昇し、入院診療稼働額が増加したことは、効率的な病床運営を行った結果であり、その取り組みにより大幅な業務損益の黒字を達成したことについて評価する。
- 医薬品や医療材料について、年間値引き目標値を設定することで、購入経費の削減を図るとともに、全国の大学病院等の購入実績を参考に、価格交渉を実施した点を評価する。
また、後発医薬品の導入に取り組んだ結果、前年度と比較して約1億9千万円の医薬材料費が削減された。

【地域貢献】

- 地域医療枠・県民医療枠のキャリア形成支援に資する研修等の取り組みの結果、採用臨床研修医の研修終了後県内定着率が年度計画で定めた目標値を上回っている点を評価する。

一方、以下の点について一層の努力が求められる

【教育】

- 医学部基礎系の教室から発表された論文数は研究者数を考慮しても多いとはいえないことから、その要因を分析し、活性化対策に取り組むことを期待する。

【研究】

- 企業等からの共同研究等に関する問い合わせを受け、URA（研究企画支援組織）が研究者を検索、マッチングし、産官学連携に取り組んでいるが、結果として共同研究等に至っていない。今後の取り組みに期待する。

【診療】

- 診療報酬未収金が減少していないため、回収の努力だけではなく、発生要因を分析し、未収金残高が減少する具体的な対策に取り組むことを期待する。

2 特色ある取組等

【研究】

- 令和2年9月に、3学部間の共同研究及び企業との共同研究により、創薬・臨床研究の充実を図ることを目的に「次世代医療研究センター」を設置した。

【診療】

- 附属病院本院に、「臍がんドッグ」を開設し、検診による臍がんの早期発見治療を目指す体制を整えた。
- 紀北分院では、近隣の医療機関と連携を強化し、和歌山県総合診療医育成プログラムを実施する体制を一層強化した。

【地域貢献】

- 汎用画像診断装置用プログラム「Join」を活用した遠隔救急支援システムは、実績値で前年度と比較して約2倍となり、地域医療に貢献するツールとして利用の拡大が進んだ。

第2 項目別評価

評 定 の 区 分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-----------------------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載 52 事項中 51 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈医学部、保健看護学部〉

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、急遽 ICT 環境を整備し、遠隔授業を可能にしたことで感染症対策を講じつつも面接授業・遠隔授業を織り交ぜながらメリハリのある授業を展開したことについて評価する。
- 同窓会や卒後臨床研修センター等との連携や卒業生との交流会等を通じて、卒業後のキャリア形成を追跡している点を評価する。

〈医学部〉

- 入試の改善を図るため、従来の入試制度検討部会を廃止し、入試制度検討委員会に格上げしたことについて評価する。
- CBT の合否判定基準を引き上げ、学生の医学知識の向上を促した結果、平均点が前年の 488 点から 530 点に向上した点を評価する。

〈保健看護学部〉

- 県内高校を対象とした大学説明会について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなかで、WEB を活用したオープンキャンパスや高校訪問を実施したことについて評価する。
- 「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」を参考に、カリキュラムの見直しを行い、令和 4 年度より適用となる指定規則への対応を含めた新カリキュラムを作成し、文部科学省に承認されたことについて評価する。

〈大学院医学研究科〉

- 大学院博士課程の入学者が定員を上回ったこと、前年度と同程度に論文発表数、学会発表数を維持されたことについて評価する。

【指摘事項】**〈医学部〉**

- 新卒者の医師国家試験合格率が、全国平均より高いとはいえ、例年より低下した。必要となる対策に取り組まれない。

〈大学院医学研究科〉

- 医学部基礎系教室の研究について、論文発表数等からみるとアクティビティーは必ずしも高くないように思われる。活性化対策に取り組まれない。
- 大学院生が研究に専念できる時間を、研究内容に応じ十分に確保することが必要であり、実態を把握したうえで対策を講じられたい。

(2) 研究**【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価**

年度計画の記載 10 事項中 8 事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 若手研究者の優れた発表論文に対して、「学術論文奨励賞」「若手研究奨励賞」「次世代リーダー賞」を設け、研究成果を積極的に論文として発表することを奨励している点を評価する。
- 特定研究助成プロジェクトや若手研究支援助成において、応募数・採択数・助成額いずれも増加しており、今後の更なる発展が期待される。
- 次世代医療研究センター内に共同研究講座を設置し、次世代がん創薬研究に向けた整備を進めた点について評価する。

【指摘事項】

- URA (研究企画支援組織) 組織の体制を強化していくことが課題である。今後、課題の改善に向けた具体的な対策に取り組まれない。
- 外部の特定臨床研究に対する支援件数について、共同研究・受託研究の契約件数や治験実施症例件数とあわせて更なる増加を期待する。
- 基礎系及び臨床系に所属する教員における競争的資金への教員応募率は 83%であるが、基礎系の教室に所属する教員については 100%を目標として取り組まれない。

(3) 診療**【評定】 B (概ね順調に進んでいる。) 自己評価**

年度計画の記載 31 事項中 30 事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】**〈附属病院本院〉**

- 院内感染対策として専従医師を配属し、感染症診療支援体制を強化するとともに、新型コ

コロナウイルス感染症対策として、クラスター発生医療機関への指導、助言に取り組んだことについて評価する。

- 65 歳以上の入院予定患者を対象にした認知症スクリーニングについて、3 診療科を追加し、合計 14 の診療科に拡大するなど、さまざまな認知症対策を講じている点の評価する。
- 和歌山県内の身体疾患を合併した精神疾患患者、脳器質性精神疾患患者を積極的に受け入れている点の評価する。また、産後うつ病スクリーニングを実施している精神科の活動についても評価する。
- ワンストップサービスをモットーとした患者相談窓口は、相談件数も多く、患者サービスとして機能している点の評価する。今後も PFM（入院時支援）の改善に取り組むことを期待する。

〈紀北分院〉

- 地域密着型協力病院として、地域密着型医療に加え、先進的な手術医療や認知症の診療で着実に充実している点の評価する。また、総合診療の研修施設としても重要な役割を果たすことを期待する。

〈病院運営〉

- 病院長主導のもと、「病院運営戦略会議」を毎週開催し、収益増加・経費削減の取り組みを強化した点について評価する。なお、同会議を「附属病院 COVID-19 対策会議」としても運用し、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減・支出増を最小限にするよう協議し方針を決定したことについても評価する。

【指摘事項】

〈附属病院本院・紀北分院〉

- 患者の診察待ち時間削減に向けた取り組みが求められる。

〈紀北分院〉

- 紹介率・逆紹介率は、前年度と比較して少し改善したが、年度目標を満たしていない。今後の取り組みに期待する。

(4) 国際化

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載 6 事項中 1 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、5 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外研修・海外留学や学術交流・学生交流が中止となったが、コロナ禍の状況にありながらオンラインを活用し交流を図った点について評価する。

【指摘事項】

- 新型コロナウイルス感染終息後に向けて、国際交流及び大学の国際化の懸案を整理し、リモートを織り交ぜた新たな計画実施体制の構築を検討されたい。

2 地域貢献

(1) 教育

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 指導医を養成する講習会の開催、総合診療専門研修プログラムの充実など、人材育成に積極的に取り組んでいる点について評価する。
- 令和3年度に開学する薬学部をPRすることで、優秀な人材の確保に繋げる取り組みを展開したことについて評価する。

(2) 研究

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 和歌山県の「アフターコロナ実用開発実証推進事業」を活用し、県内企業と連携して密集回避・非接触の医療現場を実現するためのスマートグラス型簡易カルテシステムの開発に着手していくことについて評価する。

(3) 診療

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載13事項中12事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 膵がんの早期発見を目的に、県医師会と連携して膵がん疑いの症例を拾い上げる「きのくにプロジェクト」を推進していることについて評価する。
- 病診連携カンファレンスについて、オンライン開催など開催方法を工夫したことにより年度計画で定める目標回数を達成した点について評価する。

【指摘事項】

- 患者と1対1で対応する遠隔外来診療は課題も多いが、現行のD-D-P (Doctor to Doctor to Patient) の遠隔外来を更に拡げていくことを期待する。

(4) 地域の活性化

【評定】C（やや遅れている。）自己評価

年度計画の記載4事項中3事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に

勘案したことによる。

【評価事項】

- 県民向け市民講座「最新の医学・医療カンファレンス」を新型コロナウイルス感染症のため全て中止としたが、過去のカンファレンス動画を本学のYouTubeチャンネルに掲載した点について評価する。

【指摘事項】

- 地域の情報発信について、従来から実施している講演会等だけではなく、様々なメディアを駆使した多角的な取り組みを期待する。

3 業務運営の改善及び効率化

(1) 法人運営の強化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 平成29年度に策定した経営改善計画の検証を行い、概ね目標を達成していることを確認するとともに、新たな課題への対応を図るため、経営改善計画を改定した点について評価する。

(2) 人事の適正化・人材育成等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 年次有給休暇取得日数について、令和2年(暦年)は9.6日と第3期中期計画の最終目標値である10日に近づいている点を評価する。引き続き、年次休暇取得の促進に努められたい。
- 過重労働者に対するメンタルヘルス相談で、面談結果を本人同意のもと所属長と共有した結果、所属長が職場環境改善に取り組むきっかけとなった事例について評価する。

【指摘事項】

- 男女共同参画において、令和2年4月1日現在の管理職に占める女性の割合は24.6%となっており、女性活躍推進法等に基づく一般事業主行動計画の計画期間の終了(令和3年3月末)を機に、令和3年度からの次期計画で掲げている30%に近づけるという目標を達成することができるよう具体的な対策に取り組まれない。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 3学部間大学内ネットワークの専用回線 10 ギガ対応により、高速・大容量の大学内ネットワークの構築を進めるとともに、遠隔授業や遠隔会議に必要なソフトウェアの登録・利用を推進した点を評価する。

4 財務内容の改善

(1) 財務内容の健全化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 1 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 経営改善計画に基づく収入の増加や経費の抑制に取り組んだ結果、年度計画で定める目標値を大幅に上回る経常黒字を確保したことについて評価する。
- 借入金残高が 41.7 億円と前年度と比較して 3.9 億円減少し、年度計画で定める目標値を達成した点について評価する。今後は、施設整備の大規模改修などが見込まれることから、引き続き収支バランスのとれた健全な法人運営に努められたい。

(2) 自己収入の増加

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載 3 事項中 2 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 科学研究費助成事業等を含む競争的資金の獲得額が年度計画で定める目標値を下回ったため、積極的に対策を講じられたい。

(3) 経費の抑制

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 査定率の縮減や入院期間の適正化などの取り組みを行った点を評価する。

(4) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 建物の効率的かつ計画的な改修や更新等により施設の長寿命化や財政負担の軽減及び平準

化を図るとともに適正な維持保全を実施するため、個別施設計画を策定したことについて評価する。

5 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- (公財) 日本医療機能評価機構の病院機能評価事業における「認定期間中の確認」において、改善すべき問題点を明確化し、医療の質の向上と効果的なサービスの改善に向けた取り組みを期待する。

(2) 情報公開及び情報発信

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- ホームページの診療内容、診療実績に関する掲載について、常に最新の情報をアップデートするよう取り組まれない。

6 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 次世代医療研究センターが、高度な共同研究を展開し、名実ともに発展していくことを期待する。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 法令・倫理等の遵守

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(4) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 労働政策総合推進法の改正により、事業主がパワー・ハラスメントの防止措置を講じることが義務化されたことに伴い、ハラスメント防止に関する基本方針、各ハラスメントに関して職員が認識すべき事項等に関する指針、「懲戒処分の基準」の改正を行った点を評価する。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略） ◎印は委員長

氏 名	役 職 等
◎ 辻 省 次	国際医療福祉大学大学院・医学部教授 東京大学大学院医学系研究科分子神経学特任教授
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医療経済学分野教授
坂 本 す が	東京医療保健大学副学長 公益社団法人日本看護協会前会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院名誉院長・参与 市立岸和田市民病院顧問
三 木 義 男	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授 東京医科歯科大学難治疾患研究所教授
森 脇 宏	ひだか病院名誉院長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和3年7月13日開催
- ・第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和3年8月5日開催

○大学収容定員等（令和2年5月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	600	624
保健看護学部	320	324
医学研究科	196	160
修士課程	18	18
博士課程	142	142
保健看護学研究科	33	42
博士前期課程	23	23
博士後期課程	9	19
助産学専攻科	10	9

○教職員数（令和2年5月1日現在）

総 数（人）	1,823
教員	386
事務職員	167
技術職員	7
現業職員	0
医療技術部門職員	327
看護部門職員	932
研究補助職員	4

（出典）令和2年度和歌山県立医科大学概要